

研究フォーラム② 8/8 (土) 17:00~19:00

脳とからだをつなぐ小さなカプセル

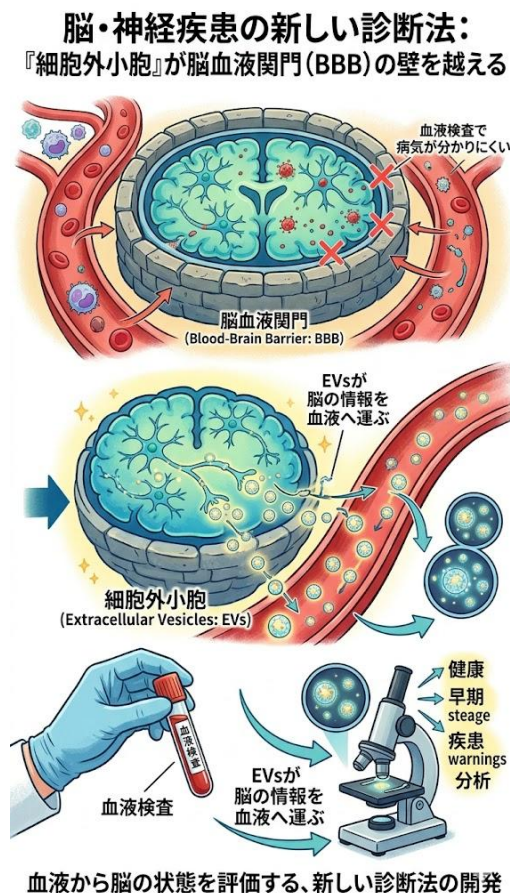
岩原 直敏

札幌医科大学 医学部神経内学講座・講師



講演内容(伝えたいこと)

脳や神経の病気は、血液検査だけで診断することが難しい領域です。その大きな理由のひとつが、脳を守る「脳血液関門 (BBB)」の存在です。これは私たちの脳を守る大切な仕組みですが、一方で血液から脳の状態を知ろうとする際には高い壁にもなります。私は、細胞が放出する小さなカプセルである「細胞外小胞」を手がかりに、血液から脳の情報を読み取る新しい診断法の研究に取り組んでいます。本講演では、なぜ神経疾患の診断が難しいのか、基礎研究が未来の医療にどうつながるのか、そして見えない脳をどう評価するかという挑戦について、できるだけわかりやすくご紹介します。さらに、若手研究者が研究を継続する意味や、研究助成の重要性についてもお話ししたいと思います。



研究テーマ

多発性硬化症の新規検査方法の確立 (2023年度)

概要

多発性硬化症 (MS) は、若い世代の女性に多くみられる脳や脊髄の病気で、再発を繰り返しながら、しびれや運動のしにくさ、見えにくさ、認知機能の低下など、さまざまな症状をもたらします。北海道では比較的患者さんが多いことが知られていますが、診断は簡単ではなく、気づかれるまでに時間がかかることもあります。私は、血液や脳脊髄液中の「細胞外小胞」という小さな粒子に注目し、MSをより早く見つけ、病気の仕組みを理解するための研究を進めてきました。

PROFILE

<https://web.sapmed.ac.jp/neurol/staff/qi5fku0000000bt.html>